

流行ニュース：

フランス、リステリア症

1999年 12月後半にフランスにおいて流行したリステリア症による患者は、現在までに 26例(うち 7名が死亡)となっている。この病気は、最長 2ヶ月もの潜伏期間があるため、今後感染者は徐々に増加していくものと予測される。症例研究の結果、フランス厚生省は、ゼリー食品の豚肉が原因として疑われると発表した。しかし、商品名は未だ特定されておらず、パリのパスツール研究所では、流行株を検出するために食物から分離された *Listeria monocytogenes* が抽出されるかを調査している。一般にこの *Listeria monocytogenes* に汚染された食物は、世界中のリステリア症の発症と死亡の重要な原因となり得る。最近この感染症は、死亡率が 20~ 30%となっており、アメリカでは 1998年 8月早くから 1999年 1月 6日までに少なくとも 50例の報告がなされた。6人の成人が死亡し、妊娠中の 2人が流産した。関連食品の運搬経路に関する調査も行なわれた。この病気を減少させるため、国際的委員会の CCFH が食物の危険管理を優先的に実施し、リステリア症の感染源を確認することになった。それにより WHO と FAO の共同体が、この感染に関する微生物学的な危険性を評価し、2001年までに最終的報告を CCFH に対し行うことになった。

今週の話題：

< 脊髄性小児麻痺 (ポリオ) 撲滅のための国際的研究所ネットワーク 1997-1999 >

- その発展と貢献の広がり -

1988年に、世界保健機構が 2000年までに脊髄性小児麻痺を世界的に根絶すると宣言した。この目標を達成するために各国から報告がなされた。根絶のための戦略の一つはポリオ特有の急性弛緩性麻痺 (AFP) の監視システムの設立である。この目的からポリオの研究所ネットワークが設立されたのである。1999年の終わりには、148施設の研究所がネットワークし、ウイルス分離や解析等におけるガイドライン、実験方法、用いる細胞株、試薬を確立し、研究所の各ネットワークのレベルで実施された。すなわち一般的に国立の研究所はポリオウイルスを分離しその血清型を固定し、地方の研究所はその血清型のなかで分離株が野生型なのかワクチン由来株なのかを特定する。特別専門研究所では遺伝子配列を決定し、ウイルスの遺伝子型からその地のものか外地から持ちこまれたものかを判断する。その他の重要な作業として AFP の発見と確実な情報収集、ウイルス抽出に必要な便の標本収集、技術や財政援助の方法検討、機器の供給、がある。1998年~1999年の間ネットワークの主な焦点は、ポリオ根絶のための過程として各研究所を確実に利用可能な状態にすることであった。そのために WHO が具体的認可基準を設けて研究所の認可制度を実施した。1999年には 108施設が許可を受けた (全体の 73%)。これまでに公認の研究室を一施設も持たない国として朝鮮民主主義人民共和国がある。また研究室間での調整や報告結果の適時性を推進するために、各研究所が電話、ファックス、電子メールなど適切な通信手段を確実にもつことを推奨し、積極的なコミュニケーションの確立が進められた。

編集ノート：1997年から 1999年の間にこれらの手段を通じたネットワークが倍増した。しかし、ポリオ風土病国のバングラディッシュやエチオピアにおける研究所の発展はまだまだである。ポリオ根絶の共通の目的は、協力的で互いに依存しあえるグローバルな監視システムを確立し、根絶の努力のための情報交換、戦略の開発を行い、国際的ポリオ研究室ネットワークを実現することである。今後、ポリオ根絶のために認可された研究所ネットワークが麻疹に対して機能するだろう。同様に風疹や他の伝染病にもこのネットワーク機能が広げることが可能だろう。ポリオ根絶ネットワークは、質の高い健康を世界のすべての領域に実現できる可能性も示した。伝染病コントロールネットワークがポリオから始まるのである。

表 1: WHOにおける脊髄性小児麻痺根絶のための研究所の国際ネットワークの現状とその活動状況 1997年と1999年

WHO地域	国立研究所 (施設数)	地方研究所 (施設数)	専門研究所 (施設数)	1997		1999	
				標本収集 件数	ポリオ ウイルス 発見件数 ()内は 野生型	標本収集 件数	ポリオ ウイルス 発見件数 ()内は 野生型
アフリカ	13	3	0	402	52(32)	6 857	969 (340)
アメリカ	8	1	1	1 386	20(0)	1 296	19 (0)
東地中海地区	8	4	0	3 607	397(270)	6 465	1 156 (837)
ヨーロッパ	43	2	4	1 003	58 (6)	3 713	825 (0)
東南アジア	13	4	0	5 864	869(536)	22 421	1 836 (1067)
大西洋地区	41	2	1	8 604	290(9)	7 618	208 (2)
計	126	16	6	20 866	1 686 (853)	48 370	5 013 (2 246)

・ 標本の収集件数が多いのは、無菌性の急性弛緩性麻痺も含まれているため。

表 1: 1997年と1999年のWHOにおける脊髄性小児麻痺根絶のための研究所の国際ネットワークの現状とその活動状況を示したものである。アフリカ地区、アメリカ地区、東地中海地区、ヨーロッパ地区、東南アジア地区、大西洋地区の各地域において、国立研究所、地方研究所、ポリオ専門特別研究所に分けて施設数を集計している。また、1997年と1999年の2年にわけて、ウイルス特定に必要な便の標本収集件数とポリオウイルス発見の件数が集計されている。()内の数字は野生型のポリオウイルスの件数である。標本数の収集件数が多いのは無菌性の急性弛緩性麻痺も含まれているため、としている。これらの内容に関し、各地区ごとにどのように2年間で違いが生じているかを比較している。

図 1: ポリオ根絶のための研究所の国際ネットワーク (2000年1月) (WEB参照)

流行ニュースの続報:

インフルエンザ

ユーゴスラビア連邦共和国 (2000年2月10日)¹: 1月の第3週から2月の第1週までインフルエンザが流行した。A型もB型も検出された。

アイスランド (2000年2月18日)¹: 2月の第3週目には落ち着き始めた。

ノルウェー (2000年2月23日)²: 2月の第3週に感染者は国民全体の1.8%となった。

ポーランド (2000年2月19日)³: 2月の第3週目に患者数の減少があったがA型のインフルエンザに関しては、まだ流行している。

ポルトガル (2000年2月26日)¹: インフルエンザは未だに活動している。隔離が不十分である。

スイス (2000年2月19日)¹: 2月の第3週目に6地区から検出された。相談件数は上昇している。

参照: ¹No.3 2000 p.25-28 ²No.4 2000 p.33-34 ³No.5 2000 p.44

(永井栄一、金子翼、片岡陳正)